



Fiery Verify

© 2026 Fiery, LLC. 本書に記載されている情報は、本製品の『法律上の注意』の対象となります。

2026年6月17日

目次

Fiery Verify 2.40	5
Fiery Verify でサポートされている測定器	5
サンプルをカラーリファレンスと比較する	6
Fiery Verify で許容値設定を作成/編集する	7
許容値セットのインポートとエクスポート	7
検証プリセットのインポートとエクスポート	8
サンプル測定値を保存する	8
参照用としてサンプルを保存する	8
リファレンスをロード	8
サンプルをロードする	9
パッチ測定	9
リファレンスとして使用するパッチページを測定する	9
サンプルファイルを測定する	10
レポートを保存する	11
検証ラベルを作成する	11

Fiery Verify 2.40

Fiery Verify は、カラーリファレンスと比較したカラー測定値の検証結果を表示します。結果は、カラーリファレンス、サンプル測定値、および許容値設定から計算されます。Fiery Verify では、比較するために許容値設定を編集できます。

Fiery Verify でサポートされている測定器

Fiery Verify では、印刷された出力の測定が必要な機能のための計測器が必要です。Fiery Verify がサポートしている測定器は以下の通りです。

サポートされている計測器

- 次の測定器では、測定リファレンスワークフローおよび測定サンプルワークフローがサポートされていません。
 - EFI ES-6000
 - EFI ES-3000
 - EFI ES-2000
 - Barbieri Spectropad (USB 接続のみ)
 - Barbieri Spectro LFP
 - Barbieri Spectro LFP qb
 - Barbieri Spectro Swing
 - Canon インライン分光測色計
 - Canon センシングユニット
 - Konica Minolta FD-9
 - Konica Minolta FD-5BT
 - Konica Minolta IQ-501
 - Konica Minolta IQ-601
 - X-Rite i1iSis 2 XL
 - X-Rite i1iSis 2
 - X-Rite i1iSis XL
 - X-Rite i1 iSis
 - X-Rite i1iO 3

- X-Rite iliO 2
 - X-Rite iliO
 - X-Rite ilPro 3
 - X-Rite ilPro 2
 - X-Rite ilPro
 - X-Rite ilPro 3+
 - Xerox iGen インライン分光測色計
 - Xerox Full Width Array
- 次の測定器では、パッチ測定ワークフローがサポートされています。
- EFI ES-3000
 - EFI ES-2000
 - X-Rite ilPro 3
 - X-Rite ilPro 2
 - X-Rite ilPro
 - X-Rite ilPro 3+
 - Konica Minolta FD-5BT
 - Konica Minolta Myiro

詳細については、[リファレンスとして使用するパッチページを測定する](#)（10 ページ）、[サンプルファイルを測定する](#)（10 ページ）、[パッチ測定](#)（9 ページ）を参照してください。

サンプルをカラーリファレンスと比較する

サンプルとリファレンスファイルをロードし、許容値設定を使って比較します。

メモ：Fiery Verify では、.icc、.txt および.it8 ファイル拡張子がサポートされています。

メモ：サンプルとリファレンスファイルには、有効な CGATS データが含まれている必要があります。

1 オプション: ファイル **新しい比較** > をクリックして、新しい比較を開始します。

2 比較 **リファレンスをロード** > をクリックします。

メモ：G7 グレースケール許容値セットには、カラーリファレンスファイルは必要ありません。

3 ファイルを選択し、**開く** をクリックします。

4 比較 **サンプルをロード** > をクリックします。

5 ファイルを選択して、**開く** をクリックします。

6 カラーワークフローに適した**許容値設定**を選択します。

7 オプション: **レポート**をクリックして、PDF形式で詳細なレポートを保存します。

メモ: G7 グレースケール許容値セットまたは G7 対象許容値セットが選択されている場合、 ΔE 列は表示されません。

Fiery Verify で許容値設定を作成/編集する

許容値設定を作成または編集して、Fiery Verify で比較するために使う基準を指定します。


以下を含むカラーワークフローの許容バリエーション限度を把握します。

- ΔE 式
- 通常の ΔE 限度
- 原色の ΔE 限度
- 色相差異の ΔH 限度
- トーン値の許容限度
- 彩度差異の ΔCh 限度
- NPDC の ΔL 限度
- スポットカラー ΔE 限度

メモ: Fiery Verify では、許容値セットは、カスタム、標準、レガシーの許容値セット別にソートされます。

メモ: 限度は、条件ごとに計算される許容値範囲を定義します

1 **編集** > **許容値セットエディター**をクリックします。

2  をクリックします。

3 **ΔE 式**を選択します。

4 必要な**許容値基準**のチェックボックスを選択します。

5 選択されている各基準の**限度**を入力します。

6 **警告**または**失敗**を選択して、測定値が指定限度を超えたときに、各基準が示される方法を選択します。

- **警告**は通知のみのため、比較を行えます。
- **失敗**は、すべての比較が失敗する原因となります。

7 **保存**をクリックします。

許容値セットのインポートとエクスポート

許容値セットをインポートまたはエクスポートして、カスタムメイドの許容値セットを再現できます。

メモ: エクスポートボタンは、カスタムメイドの許容値セットに対してのみ有効になります。

- 1 Fiery Verify で、**インポート**をクリックしてカスタムメイドの許容値セットをインポートします。
- 2 Fiery Verify で、**エクスポート**をクリックしてカスタムメイドの許容値セットをエクスポートします。

検証プリセットのインポートとエクスポート

検証プリセットをインポートまたはエクスポートして、カスタムメイドの検証プリセットを再現できます。

メモ：検証プリセットは、カラー参照、許容値セット、パッチセットに基づいています。

- 1 Color Profiler Suite から Fiery Verify を起動します。
- 2 検証プリセットの**編集**をクリックします。
- 3 **インポート**をクリックして、カスタムメイドの検証プリセットをインポートします。
- 4 **エクスポート**をクリックして、カスタムメイドの検証プリセットをエクスポートします。
エクスポートボタンは、カスタムメイドの検証プリセットに対してのみ有効になります。

サンプル測定値を保存する

検証処理の一部として行われた測定サンプルを.it8 ファイルとして保存します。

測定サンプルは.it8 ファイルとして保存されます。

リファレンスとして使用するため、または比較のために、測定サンプルを保存します。

- 1 Fiery Verify で、**比較 > サンプルを保存**をクリックします。
- 2 レポートを保存する場所に移動します。
- 3 ファイル名を入力し、**保存**をクリックします。

参照用としてサンプルを保存する

検証プリセットエディターでカラーリファレンスとして使用するために、測定サンプルを保存します。

- 1 Fiery Verify で、**比較 > 参照用としてサンプルを保存する**をクリックします。
- 2 ファイル名を入力し、**保存**をクリックします。

リファレンスをロード

リファレンスファイルを Fiery Verify にロードし、測定サンプルと比較します。

メモ：Fiery Verify では、.icc、.txt および.it8 ファイル拡張子がサポートされています。

メモ：リファレンスファイルには、有効な CGATS データが含まれている必要があります。

- 1 Fiery Verify で、**比較 > リファレンスをロード**をクリックします。
- 2 ファイルを選択し、**開く**をクリックします。

サンプルをロードする

サンプルファイルを Fiery Verify にロードし、リファレンスと比較します。

メモ：Fiery Verify では、.icc、.txt および.it8 ファイル拡張子がサポートされています。

メモ：サンプルファイルには、有効な CGATS データが含まれている必要があります。

- 1 Fiery Verify で、**比較 > サンプルをロード**をクリックします。
- 2 ファイルを選択し、**開く**をクリックします。

パッチ測定

新しく測定したカラーパッチと印刷したカラーパッチを比較できます。

サポートされている携帯型測定器がコンピューターに接続されていることを確認します。

- 1 印刷したカラーパッチを比較するには、次のいずれかの手順を実行します。
 - **ファイル > 新しい比較**をクリックします。
 - カラーリファレンスファイルまたはサンプルファイルから測定値をロードします。
- 2 **比較 > パッチ測定を開始**をクリックします。
- 3 画面のキャリブレーション手順に従って、測定器をキャリブレーションします。
- 4 **測定モード**をクリックし、任意の測定モードを選択します。
- 5 **キャリブプレート**をクリックします。
- 6 **リファレンス**または**サンプル**の行をクリックして、カラー測定値を設定します。
- 7 測定するカラーパッチの上に測定器を配置します。
- 8 測定器を使用してカラーパッチをスキャンします。

Fiery Verify は、測定したパッチ値を**リファレンス**列または**サンプル**列にリストされている値と自動的に比較し、結果を表示します。
- 9 パッチがすべて測定されたら、**測定を停止**をクリックします。

リファレンスとして使用するパッチページを測定する

Fiery Verify でカラー参照として使用するパッチページを測定できます。
印刷済みのパッチページが必要です。

メモ： Fiery Verify により測定値が.it8 ファイルとして保存されます。

- 1 Fiery Verify で、**比較 > リファレンスを測定**をクリックします。
Fiery Verify では、FieryMeasure を使用してサンプルカラーパッチを測定します。
- 2 **計器**リストから測定器を選択します。
オプションで、**設定**をクリックして測定器のオプションを設定することもできます。
- 3 測定の種類を選択します。または、ファイルからパッチレイアウトをインポートする場合は、**インポート**を選択してファイルを選択します。
- 4 測定器に適したページレイアウトを選択します。
- 5 **チャートサイズ**リストから、ワークフローに適しており、プリンターにロードされている用紙に対応するチャートサイズを選択します。
- 6 **測定**をクリックします。
- 7 画面の手順に従って、測定器のキャリブレーションを行います。
- 8 画面の指示に従って、パッチレイアウトページを測定します。

サンプルファイルを測定する

Fiery Verify のサンプルファイルとして使用するパッチページを測定できます。
印刷済みのパッチページが必要です。

メモ： Fiery Verify により測定値が.it8 ファイルとして保存されます。

- 1 Fiery Verify で、**比較 > サンプルを測定**をクリックします。
Fiery Verify は FieryMeasure を使用してサンプルカラーパッチを測定します。
- 2 **計器**リストから測定器を選択します。
オプションで、**設定**をクリックして測定器のオプションを設定することもできます。
- 3 測定の種類を選択します。または、ファイルからパッチレイアウトをインポートする場合は、**インポート**を選択してファイルを選択します。
- 4 測定器に適したページレイアウトを選択します。
- 5 **チャートサイズ**リストから、ワークフローに適しており、プリンターにロードされている用紙に対応するチャートサイズを選択します。
- 6 **測定**をクリックします。
- 7 画面の手順に従って、測定器のキャリブレーションを行います。

- 8 画面の指示に従って、パッチレイアウトページを測定します。

レポートを保存する

検証比較の詳細を PDF ファイルとして保存します。

- 1 Fiery Verify で、以下のいずれかを行います。

- ファイル **PDF にエクスポート > レポート > をクリック**

-  をクリック


- 2 レポートを保存する場所に移動します。

- 3 **保存**をクリックします。

メモ：G7 グレースケール許容値セットまたは G7 グレースケール対象許容値セットが選択されている場合、 ΔE 列は表示されません。

検証ラベルを作成する

検証比較の詳細をラベルとして PDF ファイルに保存できます。

- 1 Fiery Verify で検証が完了したら、**ラベルアイコン**をクリックします。

ラベルが PDF ファイルとして作成され、デフォルトの PDF ビューアで開かれます。

- 2 PDF ファイルを印刷または保存します。

メモ：G7 グレースケール許容値セットには、カラーリファレンスファイルは必要ありません。